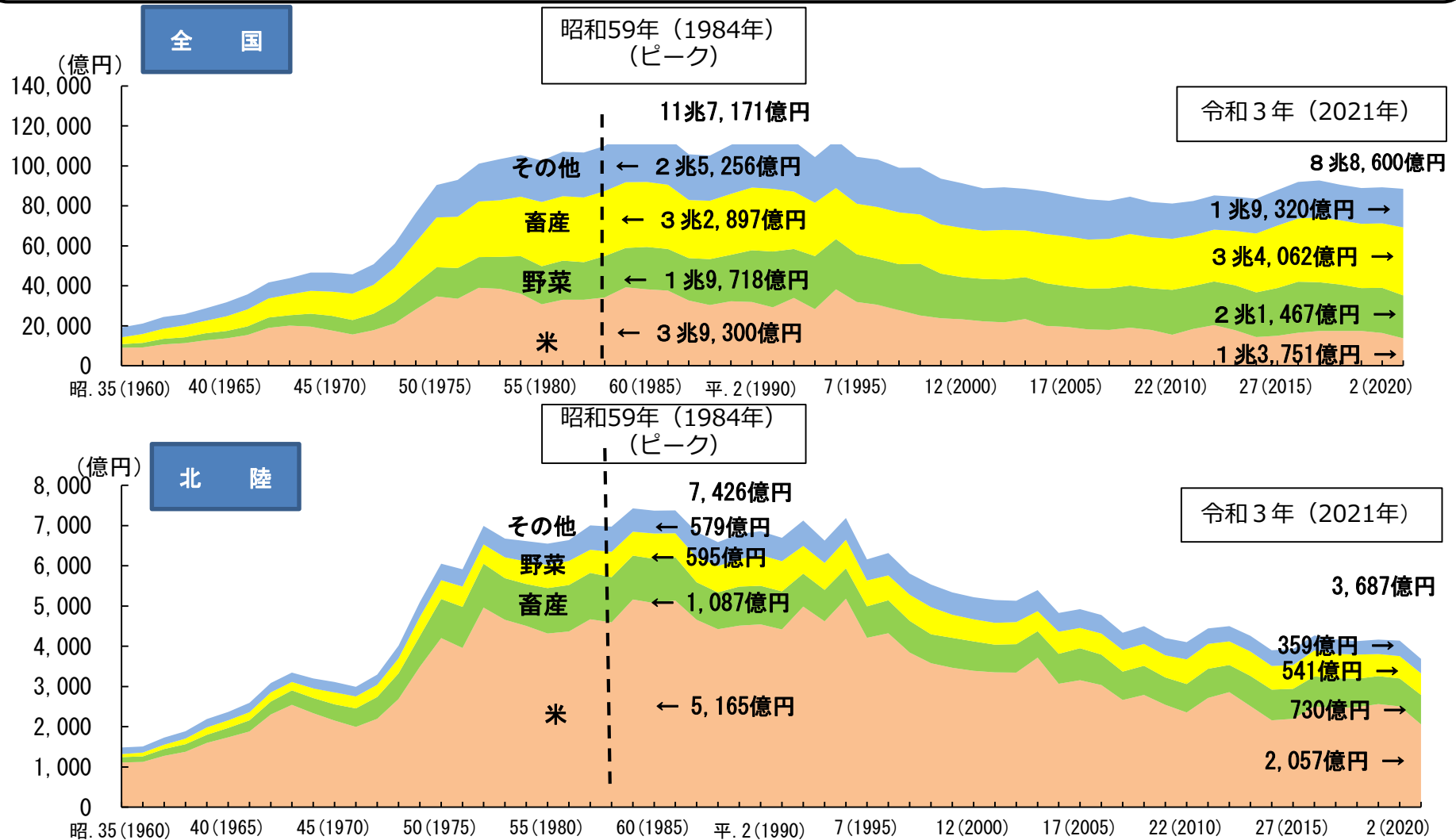


農業産出額の推移

- 令和3年の北陸の農業総産出額は3,687億円で、そのうち米が56%。昭和59年のピーク時に比べ、全国が24%の減少に対して、北陸は50%の減少。このため、需要のある米以外の作物に転換していくことが必要。



麦類の主な産地と生産状況

- 麦は、北海道畑作においては輪作体系を支える基幹作物、都府県においては水田作の水稻の裏作作物、稲・麦・大豆の2年3作作物として、各産地の作付体系を維持する上で重要な作物となっている。

北 陸

作付体系：水田作（麦、稲-麦-大豆、大豆-麦）
主な麦種：六条大麦

近 畿

作付体系：水田作（稲-麦-大豆、麦）
主な麦種：小麦、六条大麦

中 国

作付体系：水田作（稲-麦、稲-麦-大豆）
主な麦種：小麦、二条大麦

九 州

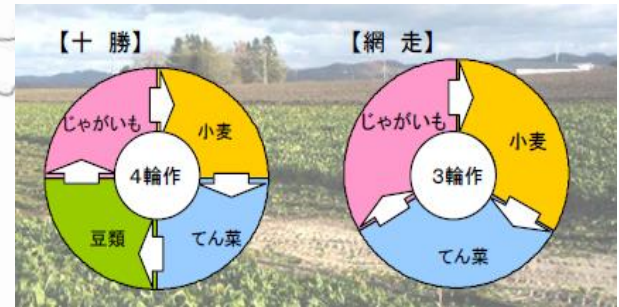
作付体系：水田作（稲-麦、大豆-麦）
主な麦種：小麦、二条大麦、はだか麦

四 国

作付体系：水田作（稲-麦、麦）
主な麦種：小麦、はだか麦

北 海 道

作付体系：畑作（小麦-てん菜-豆類-馬鈴しよ、小麦-てん菜-馬鈴しよ）
水田転作（麦）
主な麦種：小麦



東 北

作付体系：水田作（麦、稲-麦-大豆、大豆-麦）
主な麦種：小麦、六条大麦

関 東

作付体系：水田作（稲-麦、麦、大豆-麦、稲-麦-大豆）
畑作（麦）
主な麦種：小麦、二条大麦、六条大麦

東 海

作付体系：水田作（稲-麦-大豆、麦、稲-麦）
主な麦種：小麦

麦の生産者数・作付規模

○ 全国の1経営体当たりの小麦の作付面積は、H22とR2を比較して、**全国で1.5倍、北陸で1.4倍に拡大**している。また、北陸の小麦の作付経営体数は、200戸程度と横ばい。

○ 麦の作付農家数の推移 (単位：千戸)

	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
総農家数	3,835	3,444	3,120	2,848	2,528	2,155	1,747
販売農家数	2,971	2,651	2,337	1,963	1,631	1,330	1,028
小麦作付農家数	298	117	91	86	43	38	31

○ 地域別小麦作付農家数と作付面積 (R2)

	作付経営体数 (戸)		面積(ha)		一戸当たり面積 (ha)
北海道	12,261	40%	119,179	57%	9.7
東北	1,624	5%	6,628	3%	4.1
関東・東山	5,402	17%	20,703	10%	3.8
北陸	228	1%	508	0%	2.2
東海	2,517	8%	15,303	7%	6.1
近畿	2,174	7%	8,563	4%	3.9
中国	714	2%	2,418	1%	3.4
四国	610	2%	2,407	1%	3.9
九州	5,437	18%	32,941	16%	6.1
沖縄	9	0%	14	0%	1.6
計	30,976	100%	208,664	100%	6.7

○ H22年とR2年の作付農家数、面積の比較 (小麦)

	H22	H27	R2	R2/H22
全国 作付経営体数(戸)	46,202	37,694	30,976	67%
全国 作付面積 (ha)	202,844	207,149	208,664	103%
全国 1経営体当たり面積 (ha)	4.4	5.5	6.7	153%

	H22	H27	R2	R2/H22
北陸 作付経営体数(戸)	214	220	228	123%
北陸 作付面積 (ha)	348	336	508	230%
北陸 1経営体当たり面積 (ha)	1.6	1.5	2.2	138%

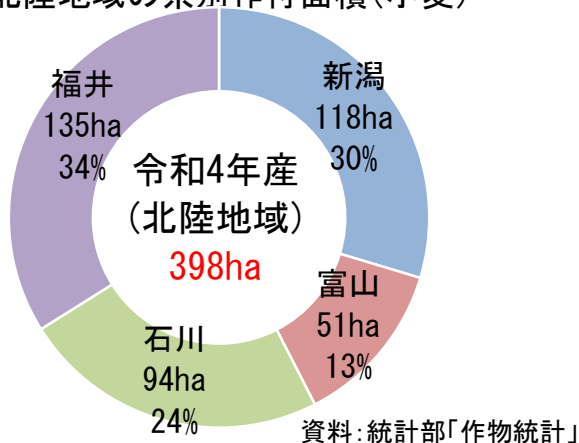
出典：農林業センサス。販売目的の作付農業経営体

出典：農林業センサス。農業経営体調査。販売目的の小麦作付経営体と作付面積

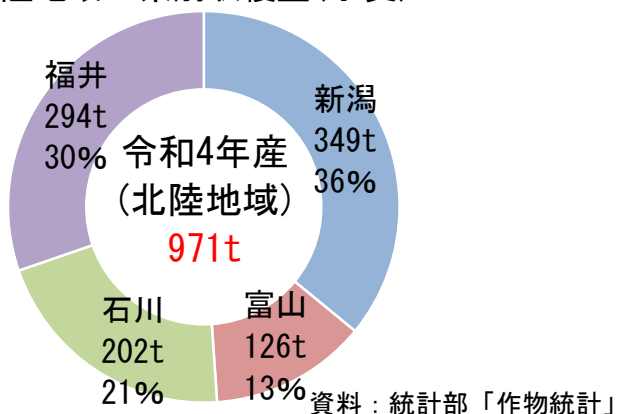
小麦の作付面積と収穫量（北陸地域）

- 北陸地域での小麦の栽培面積は398ha、うち福井県は135ha、新潟県は118ha。
（全国227,300ha、全国シェア0.2%）
- 北陸地域での小麦の収穫量は971t、うち新潟県は349t、福井県は294t。
（全国987,600t、全国シェア0.09%）
- 令和4年産の10a当たり収量は、北陸平均で244kg/10aであり、全国平均(434kg/10a)と比べて43%低い。

◆北陸地域の県別作付面積（小麦）

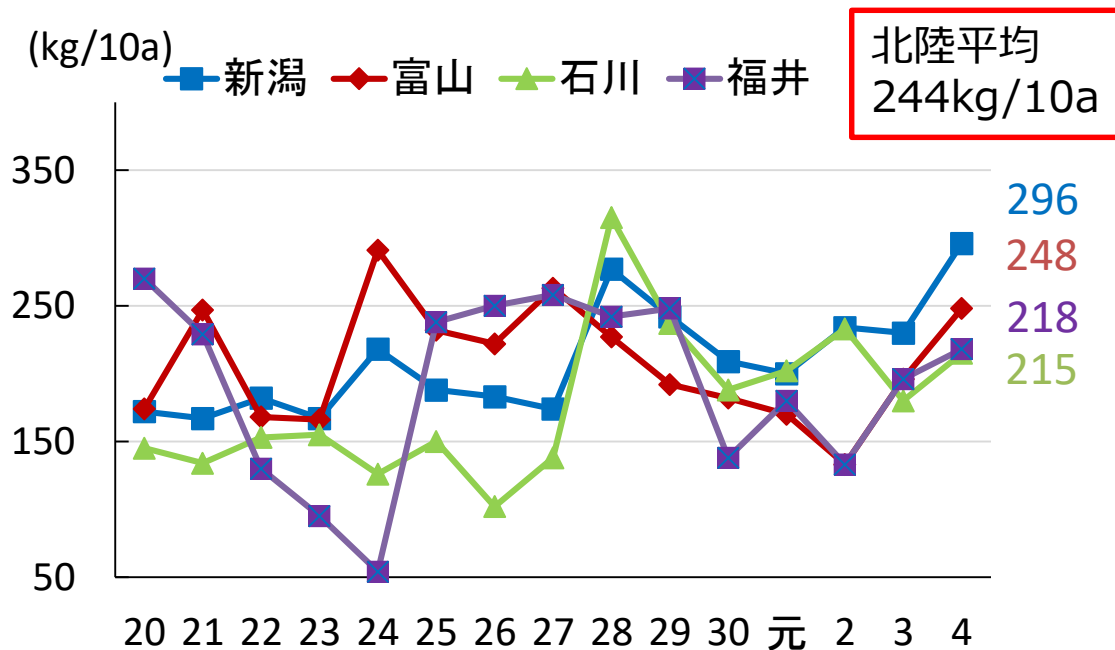


◆北陸地域の県別収穫量（小麦）



注: 合計値と内訳の計はラウンドにより一致しない場合がある。

◆北陸地域の県別の10a当たり収量（小麦）



資料: 統計部「作物統計」

北陸の麦生産の現状と課題

➤ 北陸での小麦は、作付面積が398haと少なく、単収が244kg/10aと低い。

(理由)

- ・ 排水不良田での作付で単収が良くない
- ・ 収穫期が梅雨時期(6月)となり、穂発芽や赤カビの原因となる
- ・ 収量や品質が不安定であったため、作付けが定着していない

結果として、需要に見合う生産確保ができてこなかった。

このため、安定生産に向けた諸課題（排水対策や肥培管理（施肥、除草、害虫防除）等）を解決して取り組んでいくことが必要。

これらの課題をクリアして、需要のある販売先を見つけることが、拡大への第一歩。